



414  
A1191



大正十一年四月  
大隈侯爵寄贈

銀行ノ類三アリ其一ヲ尋常ノ私立銀行  
 トイヒ其國ノ老文律ニ從テ業ヲ為ス其二ヲ官  
 許ノ銀行トイヒ私立會社ニシテ別段ノ法又ハ  
 免許ニ基キ定マレ所ノ權ヲ有ス其三ハ眞ニ百  
 浬国立銀行トイヒ者即是ナリ  
 第二 總テ三類ノ銀行ノ業トスレ所ノ大旨ハ  
 萬國皆同ニ概シテ之ヲ言ヘハ資本ヲ預リ之ヲ  
 備置キ之ヲ遣拂ヒ之ヲ借入之ヲ貸出スノ事ニ  
 シテ其資本ハ或ハ正金モアリ或ハ種々ノ物モ

アルナリ然レニ国立銀行ハ通例其國ノ政府ト關係  
スル所アリテ權義ヲ有シ職分ヲ盡ス者ナレハ  
尋常ノ銀行ヤ官許ノ銀行トハ自ラ異ナリトス  
第三 歐羅巴中何レノ國ニテモ銀行ノ事務ハ  
世間ヨリ託スル所ノ金ヲ或ハ利子ヲ加ヘ或ハ  
無利足ニテ預リ其全額ナリ或ハ一分ナリ財主  
入用ノ時ハ直ニ之ヲ返スモアリ又ハ預メ期ヲ  
定メテ返スモアリ其期ハ短キハ三日ヨリ久キ  
ハ六個月ニ至レ又引当トシテ分配金或ハ貯蓄  
ノ備ヲ置キ又其林主ニ代テ貯蓄ノ利子ヲ取集メ

又託セシメテ預リタル金額ヲ利口ニ益ノ有ル  
様ニ用ヒテ以テ銀行ノ所得ヲ謀リ又引當アレ  
ハ銀行附屬ノ者或ハ世間ヘモ金ヲ出シ置キ又  
貴金ヲ賣買シ又各國ノ間ニ為替ヲ取組ミ又商  
用手形ノ分割リヲ取ル等ナリ此他許多ノ細務  
アリトモ是レ其主ナル者ニシテ上文記スル所  
ハ一切ノ銀行ニアテハマシ其異ナル者ハ僅々  
ノミ茲ニ又アル銀行ノ主務アリテ述来ニテハ  
上ニ列載スル所ノ者ニ比スレハ一等重要ノ事  
務トナレリ銀行札ヲ發行スル是ナリ銀行ノ事

務ヲ枚擧スルカ爲ニ茲ニ之ヲ掲ゲシトモ此  
一事ハ甚ク重要ナルヲ以テ後ニ至リ別ニ詳説  
セントス

第四 前文ニ述フル所ヲ以テ推シテ之ヲ考フ  
銀行(バンク)ハ其名ノ純然タル正意ニテハ  
他人ノ金ヲ預ル者ト謂フヘキナレトモ其本業  
ハ金ヲ預リ置クヨリ却テ其金ヲ貸出シテ利ヲ  
得ルニアリ然ルニ預リ金ノ外ニ心ス多少銀行  
自家ノ金ナカレハナラス之ヲ銀行ノ資本ト曰  
フ蓋シ一社ニシテモ一人ニシテモ入用ノ時ハ

返済スヘキ請合ヲ明示セサレハ誰カ己レノ金  
或ハ所有物ヲ託セシヤ是故ニ銀行ハ自ラ金ヲ  
有シ又金ヲ借入レ又金ヲ貸出シ時トシテハ紙  
幣ヲ造テ之ヲ發行シ以テ世間ノ便利ニ給シ且  
ツ自家ノ營業ヲ手廣クスルナリ  
第五 抑、銀行ハ一時ニ今ノ姿ニナリシル者ニ  
非ス世ノ開化ニ進ム凡百ノ事ノ如ク銀行モ亦  
次第ニ今日ノ盛大ニ至リタルナリ茲ニ其濫觴  
ヲ尋ヌルニ今ヲ距レテ七百年ノ昔ニ創リシ者  
ナレカ其威勢盛大トナリ萬國之アラサル所ナ

キニ至リタルハ專ラ當千八百年間ノ事ニシテ  
公然銀行ト稱スル者ノ初ノテ日記ニ見ヘタル  
ハ千百五十六年ウニシニ於テ開局シ千七百九  
十七年マテ永<sup>續</sup>シタリ其主意ハ元來只ウニシ  
國合衆政府ノ為ニ國債利足ノ償却法ヲ定設セ  
ンカ為タリシカ其後少間ニシテ商用手形ノ方  
行ハレ此ノ市彼ノ府或ハ此ノ國ト彼ノ國ハ間  
ニ之ヲ取引シタルヨリ終ニ其銀行盛ニ之ヲ各  
國ノ際ニ用フルニ至レリ交易盛ナルニ隨ヒ此  
ノ方ノ便利ナルヲ次第ニ明ニナリテ他ノ商社

モ亦銀行ヲ置テ以テ此便利ヲ達セリ銀行ノ洋  
名バンクトイフハ伊太利語ノバンコヨリ出テ  
タル者ニシテ<sup>倚</sup>子ノ義ナリ昔時金商ハ別ニ自  
家一個ノ<sup>倚</sup>子ヲ市場ニ設ケシヨリ終ニ金商ノ  
名トナルシナリ<sup>又</sup>バ<sup>レ</sup>セ<sup>ロ</sup>ナノ銀行ハ千三  
百七十年ニ建テゼノアノ銀行ハ千四百七年ニ  
建テアマムスチレダムノ銀行ハ千六百九年ニ建  
テハムボレグノ銀行ハ千六百十九年ニ建テシ  
ナリ示米銀行ノ札出来テ方今行ハルハ商法會  
計ノ基本漸ク立テリ然レニ千六百六十八年ス

トツクホルムノ銀行創建ノ時マテハ銀行札令  
ノ如キ姿ニ用セラレタリトハ思ハレス顧フニ  
ストツクホルムノ銀行ハ政界ニテ通用紙幣  
ヲ造ル銀行ノ蒞臨ニシテ英吉利ノ銀行ハ其後  
千六百九十四年ニ建置セシナリ  
第六 英吉利ノ銀行ハ株ヲ分賣シタル合社  
シテ其資本百二十万ポンドアリ曾テ之ヲ英國  
政府ニ貸セシナリ故ニ實ハ創立ノ時ヨリ國立  
銀行ナリ其受クル免許初メハ十一年間ヲ限リ  
トセシガ次テ又新ニ金ヲ政府ニ貸シ其度毎ニ

更ニ免許ヲ得タリ魯西亞ニテハ千七百八十六  
年ニ佛蘭西ニテハ千八百三年ニネーデルスニ  
テハ千八百八年ニ奧地利普魯士及ニ亞墨利加  
合衆國ニテハ千八百十六年ニ英吉利ノ銀行ト  
同シ銀行ヲ建置セリ但其主務及ニ主意ニ至テ  
ハ大ニ異ナル所アリトス抑英吉利ノ銀行ハ強  
チ是トイフ理ノアルニハ非ヤレトモ然テ國立  
銀行中ニテ基礎最堅ク法方最備ナル者ト世人  
ノ為ニ所ナレハ先ツ之ヲ以テ初ト為シ其所行  
ノ方式及ニ職務免許ノ個條ヲ述ヘテ以テ他ノ

銀行ト之ヲ比視スルヲ良シトス

第七 英吉利ノ銀行ニ方今行ハル、規

八百四十四年ニ定ムル所ニシテ此年更ニ定

ラ得テ今ノ所謂「バンク」ト云フ者ナリ其條令「銀行條令」ノ法ハ

此貯議院ノ決定シタル者ナリ其條令「銀行條令」ノ法ハ

行ヲ發行ト為替ノ二局ニ分ツ蓋シ條令ノ主意

及ニ此分局ノ主意ハ銀行ニ貯積スル金貨ト同

数ノ外ハ妄ニ限額ヲ越ヘテ札ヲ發行セシメヤ

ルノ説ヲ用ヒタル者ニシテ從來久シク其可非

ヲ劇論シ衆議院可トスル者ト非トスル者ト

相半シタリシナリ其之ヲ議定シテ法ト為シタ

レ説ニハ銀行札ノ發行ヲ限レト此ノ如クセハ

亦必ス國內ニテモ外國ニテモ切迫ノ時ニ方リ

銀行ニ對シ金貨ヲ要求スレノ道ヲモ限ル訳ナ

リ銀行ニ正金ヲ貯ヘンニハ獨札ヲ發行セシム

ル方ヲ以テ得ヘキノミト為ス然レトモ實際

ニ於テ此説ノ全ク無益ナル證判然ニシテ紙幣

發行ノ多少ニ因テ決シテ金貨ノ要求ハ變マス

其実ハ銀行金貨ヲ世間へ引出サレテ札ヲ持込

マレ、ヲ防ク、方獨彼為替局ヲ以テ發行局ヲ

助ケ銀行貯積ノ金貨減スルトキハ分對ソク揚  
ケテ切手ト易ヘテ銀行札ヲ得之ヲ以テ金貨ニ  
易ヘシトスルモ費多クシテ利ナカラシムルニ  
在リ是レ其銀行條令ノ廢マラル、所以ニラテ  
即チ英吉利銀行ヲ以テ法方実行全備スル者  
鑑ト為スヘカラサルノ一端ナリ千八百四十  
年銀行興廢ノ期以來英國政府已ムトテ得ス彼  
アクトトテ廢シ銀行ニ許シテ條令中ニ掲ケレ限  
ヲ越ヘテ札ヲ發行セシメタルト既ニ三四ニ至  
レリ

第八 札ヲ世間ニ發行スルノ際ニ於テ發行局  
ヲ管理スルノ左ノ如シ千八百四十四年ニ<sup>二</sup>局ヲ  
分立スルノ時政<sup>府</sup>千六百九十四年以來相次テ  
銀行ヨリ借リタル総額千百一十五千ポンドナ  
リ故ニテ政府ノ發行局ヨリ百分三ノ利  
子ヲ借リタル者ト公布シ銀行ハ金貨ヲ貯置  
カストモ此數額ノ札ヲ發行スルノ許ヲ得タリ  
彼アリトニハ之ヲ明記マストモ是レ實ハ政  
府自ラ證人トナリ銀行ヲシテ千百一十五千ポ  
ンドマテノ紙幣ヲ發行セシメタルナリ銀行亦



別ニ保證アリテ引當ノ貯金ナクトモ更ニ三百  
四十六万ポンドノ紙幣ヲ發行スルヲ得ル許可  
アルヲ以テ合セテ英吉利銀行ノ引當貯金ナシ  
ニ發行スルヲ得ル札ノ額千四百四十七万五千  
ポンドニシテ此額外ノ紙幣ヲ發行スルニハ必  
ス同數ノ金貨ヲ庫中ニ備ヘサルヘカラス右ノ  
如クシテ發行スル札總額(大數ヲ舉クルニ)千四  
百万ポンドニシテ其利足百分ノ三ハ四十二万  
ポンドト為ル銀行年々之ヲ得テ其中ヨリ毎年  
十八万ポンドヲ政府ヘ納メテ銀行免許ノ謝ト為

シ又發行局ノ費用一年十六万ポンド宛ナレハ  
其局ノ一年中ノ正味ノ利分ハ八万ポンドナリ  
第九 英吉利銀行ノ為替局ト他ノ銀行ト異ナ  
ル所ハ獨其事業ノ手廣キト國債ノ利足及ビ處  
置ヲ為スト政府ヨリ預金アリテ入用ノ時ハ一  
時尙金ヲ政府ヘ渡スニ在リ英國政府ハ銀行ノ  
年々二十四万七千ポンド許ノ世話料ヲ拂テ國  
債ノ事ヲ處置セシム其費十二万四千ポンド許  
ニシテ此件ニ就キ銀行一年ノ利得十二万三千  
ポンド許ナリ此他ノ利分ハ他ノ銀行ノ

リ金ヲ操廻スヨリ得ル者ニシテ預リ金  
百万ポンドヨリ二千五百方ポンドノ間ナリ英  
吉利銀行ノ資本ハ千四百五十五万三千ポンド  
ニシテ其中三百五十三万ポンドヲ除クノ外一  
切政府ヘ永久貸附クル者トス  
第十 佛蘭西ノ紙幣ヲ發行スル銀行ハ千七百  
十六年ニ初テ國法上ニ於テ許シ建置スル所ナ  
リシガ全ク大宛遇ニシテ終ニ滅亡シタリ後六  
十年ヲ経テテユレゴウ更ニ銀行ヲ建テシガ千  
七百八十九年佛國大改革ノ時閉塞シ今ノ仙蘭

西銀行ハ千八百三年ニ建テリ其初数年ノ間ハ  
種々ノ艱苦ヲ嘗メタリ其故ハ私立ノ数社アリ  
之ト競ヒ佛蘭西銀行ハ巴里斯及ヒ其他数處ニ  
支局ヲ設ケ札ヲ發行スレ特許ヲ有スト虽モ世  
間ニテハ之ヲ見ル他ノ私立銀行ト異ナラス  
別段余計之ヲ信用セザリシ其能ク他ノ紙幣ヲ  
發行スル銀行ヲ併吞スルノ權ヲ得獨紙幣ヲ發  
行スル特許ヲ專ラニセシハ千八百四十八年後  
ノ事ニシテ此時ハ實ニ其危急存亡ノ機ナリ(右  
ノ特許ハ他國ニ未タ曾テアラサル所ナリ)千八

百五十七年新ニ四十年間、免許ヲ受ケ資本ヲ  
増シテ七百六十万ポンドト為シ其内四百丁ホ  
ンドハ百分三ノ利ニテ預ル所ナリ  
第十一 佛蘭西ノ銀行ハ政府ト關係ナキ者ト  
謂ヘシ其故ハ政府ノ會計ヲ請合セ政府ニ金  
前貸シスルト虽モ其為ス所私立銀行ノ如クニ  
シテ別改職務ヲク然テ政府ノ仕拂ハ大藏卿之  
ヲ為セハナリ佛蘭西銀行ノ他ト異ナル所ニ個  
條アリ全國中ニ札ヲ發行スルヲ得ルハ獨此銀  
行ノミナル一ナリ其發行スル所ノ札ノ負額ヲ

手元ニ備フル正金ト比例スルニ定メ規則ナク  
別ニ政府ニテ請合フニモ非ス唯法ヲ以テ其限  
ヲ立ツルニナリ

第十二 比利義伊太利西班牙ノ銀行ハ佛蘭西  
ト同式ナリ之ヲ除クノ外歐洲各國ノ国立銀行  
ハ皆公債ノ處置ニ任シ英吉利佛蘭西ノ銀行ト  
ハ異ニシテ多少政府ノ威推制御ヲ仰ケリ

第十三 <sup>上</sup>文ニ歐洲ノ首タル国立銀行ノ二式  
ヲ掲ケタル者ハ其設置方法ノ大略ヲ示スノミ  
ナラス此類ノ者ヲ設クレ道理ヲ講究シ其有無

得失ヲ判断スル基本ト為スナリ  
第十四 国立銀行ノ之ヲ許シタル政府ノ對シ  
テ尽ス所ノ職務三様ナリト謂フヘシ多少其資  
本ヲ政府ヘ貸ス一ナリ政府ノ公債ヲ處置スル  
ニナリ政府ノ請合ノ有無ト特權ノ有無トニ相  
ラズ札ヲ発行スル三ナリ  
第十五 其第一事ハ官立銀行ニテモ私立銀行  
ニテモ同シク為ス一ヲ得ヘキナリ人ノ政府ヲ  
信スル方今ノ如キ形勢ニテハ政府タル者必ス  
シモ国立銀行ヲ待テテ而後金ヲ借ラス他ニ誰

ニテモ同シ利足或ハ尚利安ニテモ之ヲ借サン  
トスル者アリ英吉利銀行ハ政府ノ因迫シテ他  
ニ金ヲ借ルヘキ路ノナキ時ニ方テ前後數回金  
ヲ出シタル一固ヨリ明ナレトモ今ハ既ニ然ラ  
ス今日ニテハ他ヨリ千百万ステリングノ金  
ヲ借リ之ヲ以テ英吉利銀行ノ借金ヲ償却スル  
程政府ノ事業ニ取テ易マタル事ハナカルヘシ  
然ルヲ此ノ如クマシテ曰未ク俟ニシテ行ク  
者ハ別ニ銀行ヲ存セサルヘカサレ道理アリ  
テ然ルニ非ス全ク習慣ニ因テ然ルノミ又佛蘭

西銀行ノ政府ノ貯蓄ニ預ケタル四百万ステル  
リングハ政府ニ請合テ頼ム為メノ金同然ニシ  
テ決シテ新ニ貸シタル金ニ非ス其故ハ政府其  
金ヲ受取ラス又之ヲ為ニ新ニ貯蓄金ヲモ造ラ  
サレハナリ此話ハ歐洲各國ニ通シテアテハハ  
ヘシ何レノ<sup>國</sup>国立銀行モ政府ハ永久ノ前金ヲ納  
メス或ハ之ヲ物メタルモ政府之ヲ他ヨリ借リ  
得ルハ容易ニ便スル事ニシテ必スシモ銀行ヲ  
待タザレナリ是故ニ方今ハ非常ノ時勢ニ非サ  
レハ政府ハ金ヲ貸ス者ハ獨国立銀行メリトス

レ程ノ益ナシト謂フハ非難スヘナラサルノ理  
タルヲ判然タリ  
第十六 前文ニ述フル如ク国立銀行ハ政府ノ  
金主タル程ノ益ハナキ者ナレトモ然レトモ又  
依外ノ事アリテ此理ノ通セサル所アリ佛蘭西  
ニ於テコレアリ佛蘭西銀行ノ如ク札ヲ発行  
ルノ權ヲ專ニシ法律ノ時々其數額ヲ定マルノ  
外ハ之ヲ發行スルニ制限ナク引當金ノ有無ニ  
モ拘ラサルトキハ國家切迫ノ時ニ方テ政府國  
立銀行ハ紙幣發行ノ數額ヲ増許シ因テ以テ他

ニテハ容易ニ得ル能ハサレ巨萬ノ金ヲ國立銀行ヨリ前借リスルヲ得レト明ナリ近來戦争ノ時佛蘭西政府ハ佛蘭西銀行ヨリ六千万ステルリングノ金ヲ借リシカ多分ハ右ノ仕方ニテ為シタルナリ即チ政府銀行ニ許シテ札ヲ發行スル數額ヲ増シ其造リタル札ヲ取テ之ヲ用ヒシナリ國人篤ク政府及ビ銀行ヲ信スル間ハ此仕方亦危険ナカレヘケレトモ是レ例外ノ事ニシテ只臨時ノ用ヲ為スノミ決シテ之ヲ引テ國立銀行ヲ設立スレノ可否不定ムル通論ノ證ト

為スヘカラス

第十七 又公債ヲ處置スルモ政府自ラ之ヲ扱ヒ得難キニ非ス銀行ニ扱ハシムルヨリモ却テ費ガシ銀行ニ扱ハシムレハ必ス其利分ヲ取レハナリ英吉利普魯士ノ銀行ハ政府ニ代テ國債ノ利子ヲ國人ニ分配スレトモ佛蘭西及ビ他ノ諸國ニテハ其處置全ク獨大藏卿ノ手ニ在リ故ニ此事ニ就テ必ス國立銀行ノ政府ト國人ノ間ニ立ツトヲ要マサレナリ

第十八 英吉利合衆國其他ノ國ニテモ為スカ

如ク私立銀行ニテモ札ヲ發行シ得ルナレトモ  
佛蘭西ノ如ク獨國立銀行ニテ發行スル勝  
所アレバ必セリ其故ハ國立銀行ノ仕方巧ニシ  
テ全國ノ信ヲ得レハ發行スル所ノ札國中何レ  
ノ處ニテモ同價ニ能ク通用スルノ便アルヘ  
私立銀行ノ發行スル札ハ常ニ唯一地方ニ通用  
スルノミニシテ動モスレハ價低下シ或ハ不通  
用ニナルヲアレハナリ

第十九 是ヲ以テ國立銀行ノ便ヲ主張スル説  
ハ其國從來ノ慣習ト特權ヲ以テ全國ノ信用ス

レ札ヲ發行スルノ便アルトノ二個條ニ因ルナ  
レトモ又第三ノ一個條アリ共ニ記載セサルハ  
カラス蓋シ國立銀行ハ資本ヲ有スルヲ以テ世  
界中最大ノ分割ヲ取ル者トナリ因テ又各國ノ  
分割ノ多少ヲ定ムル者トナル此事ニ就キ銀  
行ノ権力ハ甚ク大且ク重ク是レ人ノ銀行ニ不  
可缺ノ者ト為ヌ所以ノ一個條ナリ抑方今改判  
各國内外交易ノ盛ナルニ至リ國立銀行ハ其國  
ノ金銀ヲ預リ守レ一種ノ番人ニシテ兼テ分割  
ノ割合ヲ定ムル役人ト為ヌト自ラ通則トメ

レリ(是レ實地習慣ニ基ツク所ニシテ別ニ道理  
アルニ非ス)國內ニ金銀ヲ蓄積スルノ方蓄積  
スル金銀ノ減スルトキ之ニ準シテ分割リノ割  
合ヲ高クスルヨリ簡ニシテ慥ナル方未タ曾テ  
之ヲ見ス是故ニ自立銀行ノ分割リヲ定ムル便  
ノ主張シ因テ又之ヲ設置スルノ便ヲ主張スル  
ノ理アリ此論ハ国立銀行ヲ無益ノ者トスル人  
モ強ク排拒セザル所ナリ国立銀行ヲ以テ無益  
ト為ス人ハ固ヨリ他ノ個條ニ就テハ決シテ不  
可缺トイフ理ナシト為セトモ分割リヲ定ムル

役人ノ一條ニ至テハ自立銀行ノ職必要ニシテ  
私立銀行ノ為ス所ニ比スレハ巧ニシテ且ツ力  
アリト謂フ

第二十 然レ又畢竟国立銀行ノ設クヘキト設  
ケストモヨキト又之ヲ設クルニ至テハ其方法  
如何ヲ決スルハ從來ノ習慣ト交易ノ模様ト自  
テ專ラ定マルノミニモ非ス既ニ国立銀行アル  
國ニシテ又今日新ニ設ケントスル國ニシテモ  
專ラ其目ノ情勢ニ關係スル者ト為サ、ルヘカ  
ラズ英吉利人ハ自國ノ銀行ノ為ス所ニ慣テ自



然其仕方ヲ以テ最勝ト為ス、佛蘭西人ハ之  
ト異ナル仕方ニ慣ル、ヲ以テ論シテ曰、英  
吉利ノ銀行ニ紙幣發行ノ特權ヲ與ヘ、ナハ全備  
ノ銀行トナルヘシ、佛蘭西銀行ハ此權アリ、英吉  
利銀行ハ此權アラサレハナリ、又公債ノ取扱ヲ  
銀行ニ委スルハ徒無益ノ煩雜冗費ヲ生スルカ  
故此任ヲ銀行ヨリ奪フヘシト、各國皆其仕方習  
慣趣向ノ殊異ナルニ隨ビ、自國ニ行ハル、者ヲ  
以テ最良ト為シ、普通ノ法モナク、又別改定レル  
方式モナク、且ツ国立銀行ヲ設置スルヤ、学識

アル人痛ク之ヲ拒ム者多シ、其說ニ曰ク、專權ト  
イフ事ハ決シテ許スヘカ、テス銀行札モ金ノ分  
割リモ宜シク、公ニ世人奔競ノ勢ニ委シテ、政府  
其間ニ入ヤサルヘシ、猶怨テ交易凡百ノ業ニ於  
ケル、<sup>如ク</sup>然リト是亦一理ヲキニ非ヤルナリ  
第二十一 然ルニ今日未ク国立銀行ナル者ノ  
アラサル、自ニ於テ之ヲ設置セント決シタル上  
ニテハ、設置ノ方法一ニ其國ノ急務ト事情ヲ酌  
酌シテ定ムヘキ、誰モ異論ナカルヘシ、然レハ  
他國ニ行ハル、方式ヲ能ク講明シテ其得失ヲ

審辨スヘキハ勿論ナレトモ全ク其低取テ以テ  
施行シ得ヘキ者ハ決シテアテサルヘシ故ニ勉  
メテ僻説ヲ持セズ臆見ヲ加ヘス一ニ只新設セ  
ントスル銀行ヲシテ最能ク其國ノ情勢ニ適セ  
シメントセハ自ラ其主意ニ合フヘキナリ  
第二十二 此ノ如キ時ニ方テハ決シテ偏頗ニ  
一方ヘ着目スヘカラス必ズ衆説ヲ参考スヘシ  
其故ハ新ニ此類ノ者ヲ設置スルニハ種々ノ源  
因ノ関涉スル者ナレハナリ札ノ發行スル規則  
其發行スル數額ハ政府從來ノ事業ニ準シ又請

合フ轉スルハ政府ト銀行ノ間ニテ議定スヘク  
資本ノ多寡ハ其精合次第ナレズ利分ヲ得ル  
方策ハ其資本ノ多寡ニ準スヘク銀行ノ國ノ  
會計ニ關係シ分配ヲ受クヘキ多少ハ只國俗急  
務或ハ便宜ヲ計テ定ムヘキノミナラス銀行所  
得ノ利分ヲミ計テ定ムヘシ只他國ノ銀行ニ設  
置シタル方ヲ知リタリトモ此等ノ事ヲ審辨ス  
ルニ足ラス特ニ其國ノ時勢主意急務トスル所  
ニ合セラ處置決定スヘキナリ  
第二十三 日本ノ如キニ至テハ歐洲各國ニテ

未曾有ノ事實アレヲ以テ前ニ説ク所殊ニ適切  
ナリトス現在日本政府ノ銀行札ヲ發行スル一  
條ノ如キハ他國ニ無類ノ事ナレトモ是即チ國  
立銀行ヲ設置スヘキ所以ノ理ニシテ獨此一事  
ヲ以テ日本ニテハ斷然國立銀行ヲ建置セザル  
ヘカラスト謂フヘシ又政府ノ名目ニテ正金ト  
引換ノ出来ヤル通用紙幣ヲ發行スルノ不便ニ  
シテ危險ナルハ固ヨリ明ナレト言フヲ待タス  
故ニ衆人皆以此ノ如クセザルヲ得ルノ方策  
アラシムハ務メテ速ニ止ムヘシト

第二十四 歐洲人ノ見レ所ニテハ若シ國立銀

行ナル者各國皆理ニ於テ設クマシテ實際必要缺

クヘカラサル若シ日本トモホコレ無カルベカラザル前條ノ一事ヲ以テ知レヘシ此

ノ如ク國立銀行ノ設クヘキ大本定レレ上ハ之

ヲ設クル方法ヲ論スヘシ

第二十五 然レトモ斯ク遠隔ノ國ニ在リテハ

獨歐洲ニテ歴驗スル所ト慣習トニ因テ國立銀

行建置ノ大意ヲ説クノ外日本ニ設置スヘキ國

立銀行ニ必要ノ工夫ヲ説ク能ハス其決案全備

ノ説ハ獨自ヲ其地ニ在リテ定ムヘキノミ

第二十六 日本ノ新ニ国立銀行ヲ建テサレハ  
カラサルノ情実ハ自ラ新規ニシテ甚ク殊異  
レハ恐ラクハ亦必ス他國ニ的例ナキ仕方ヲ用  
ヒサルヘカラス日本ノ銀行ニテ能ク其別段  
ル主意ニ適スルノ法方定マラハ是亦改人ノ曾  
テ知ラサル銀行ノ一體トナルヘキナリ蓋シ日  
本銀行ノ利分ノ源ハ從來歐洲銀行ニテ株持仲  
間ニ配分スレ利分ノ源トハ異ナラサルヘカラ  
ス歐洲ニテハ分割リナル者銀行ノ一大利益ノ  
源トナル業トモ今日ノ處日本ニテハ必ス

銀行ノ為ニ其利益割ニ少ナルヘシ又日本ノ銀  
行ハ歐洲銀行ノ行ハサル方ヲ立テ國內ノ工業  
ヲ補助勸奨スヘク政府モ亦銀行ニ與フルニ改  
羅巴ニテハ興ヘストモ済ハ免許利益ヲ以テセ  
サルヘカラスアルト疑ナシ今日改羅巴ノ商業ノ  
姿ヲ以テハ銀行ノ事業モ自ラ異ナレハナリ假  
令故障ハアルトモ政府宜シク手数料ヲ與ヘテ  
収税ノ一分ヲ銀行ニ充シ以テ直ニ歳入ノ源ト  
為シ又銀行ヲ以テ政府ノ手代トナシ鑛山ヲ開  
キ製造ヲ盛ニスヘシ此ノ如クシテ隨處逐次ニ

ニ種々ノ手設ヲ設ケ日本ニ未タ曾テアラサル  
一種ノ事業ヲ興スヘシ此等ノ方法ヲ全ク或  
ハ一分施行スルナレハ日本ノ国立銀行ハ只純  
粹ノ銀行タルヨリハ却テ政府ニ代テ内國ヲ開  
キ國ノ為ニ商賣ヲ盛ニスルノ用ヲ為ス者トス  
第二十七 加ニ日本人銀行ハ政府ノ用ヲ違ス  
ル為ニ枝店ヲ改羅巴ニ出シ且ツ日本商人ノ為  
ニ物品ヲ賣買シ又現今日本ニ通用スル所ノ札  
ノ引受人ト為レハシ

第二十八 以上述ケル所ノ議案中能ク驗考セ

ハ實際施行スヘキヲサレ者モアルヘケレトモ  
改羅巴人ノ見ル所ハ此ノ如クシテ建議書中  
ニ記セサルヲ得サルナリ

第二十九 政府ノ紙幣ヲ銀行ノ札ニ改ムル一  
事ハ最重大ノ要件ナリ之ヲ行フノ方如何セハ  
可ナラン英吉利ノ銀行政府ヘ貸ス所ノ千百万  
ポンドヲ引当ニシテ同額ノ札ヲ發行シタルコ  
ト引テ以テ例ト為スヲ得ヘケレドモ英吉利ニ  
テハ其發行スル所ノ札モ正金ト引換フルコトヲ  
得テ他ノ札ト異ナラステ今日本ニテハ然ル能

ハス然ラハ其札ハ一時政府ノ推ヲ以テ強テ通  
用セシムル者ト為シ置キサレハオラス(此例亦  
改羅巴ニモコレアリ現今佛蘭西ニ於ケル如シ)  
然レトモ是レ銀行札本来ノ主意ト全ク反セリ  
銀行札本来ノ主意ハ正金ニ代用シテ何時ニテ  
モ正金ト引換ノ出来ル者ナリ

第三十 然レニ日本ノ人民ハ既ニ引換ヲセサ  
レ札ニ慣レ今マテ別種ノ札アルヲ知ラス故ニ  
改羅巴ニハ行ハレサルノ方モ日本ニハ行ハレ  
サルニ非ス政府行々ハ必ス之ヲ償却スルヲ請

合ヒ償却シ終ルマテハ国内ニ發行シテ通用ス  
ル所ノ員數ヲ銀行ヨリ借リタ者ト為シ次第  
ニ金ヲ積テ其札ヲ贖戻スヘシ其間ハ政府ノ權  
ニテ強テ札ヲ通用セシメ銀行ハ發行ノ手數  
料ヲ拂フト為サハ引換ノ出来サル札ノ請合ヲ  
政府ニテ為サス轉シテ銀行ハ訖スルヲ得ヘ  
ケン  
第三十一 然レトモ茲ニ一難事アリ其銀行  
札ヲ引換ノ出来サル者ト謂ハ、向後銀行ノ自  
ラ發行スル札モ亦之ト同シク引換ノ出来サル

者ト為サ、ルヲ得ス然レトモ是、理ニ於テ不  
都合ナリ向後銀行ノ自ラ發行スル札ハ必ス萬  
國ノ如ク眼前ニテ引換ノ出来ル者ヲラサレハ  
ナラス是ノ如クスレハ同シク銀行ヨリ發行ス  
ル紙幣ニシテ一ハ引換出来一ハ引換ノ出来サ  
レニ様ノ者アルニ至ル則人亦必ラス之ヲ異ミ  
終ニハ引換ノ出来ル紙幣ヲ貴重シテ其價増シ  
引換ノ出来サル紙幣ハ賤ミテ其價減スルコト  
必然ナリ然レトモ此患ヲ救フ方アリ初メ改  
府ノ發行シタル紙幣ヲ以テ無利足ノ大藏手形

トナスカ或ハ(銀行札ノ如ク)年々減却シテ幾年  
間償還スレトイフ日限ヲ立ツルナリ其孰レカ  
可孰レカ否ナレラ決スルハ日本ニ在ラサレハ  
能ハス欧羅巴ニ在テハ只其救患ノ方策ヲ示  
スルノミ其得失如何ヲ断スルハ日本ニテ實際  
ノ事情ヲ熟知シ取捨スヘキノミ精密ニ久シク  
驗考スレ後ニ非サレハ此ノ如ク入組ミタル疑  
團ハ決スル能ハサルナリ  
第三十二 前文ニ説述スル所々推ヤハ國主銀  
行ヲ日本ニ建ツルハ必要ナリト雖モ之ヲ建ツ

ルノ法方ニ至テハ必ス新規ニ斟酌シテ定メサ  
レハカラサルノ勢情アルヲ知ルハシ日本ノ銀  
行ノ利ヲ得ル源ハ尋常改羅已ニテ銀行ノ事業  
ヲ限ル範圍外ニ在リト為サレハカラス然ラ  
クハ日本ノ銀行ハ會計ノ事ト並ニ商業工事ニ  
モ關係セサルヘカラスシテ種々政府ノ助ヲ要  
スルノ疑ナシ手数料ヲ取テ大藏ニ代リ事ヲ為  
スノ際殊ニ然リ又札ヲ發行スルニモ他國ノ例  
ノ方ヲ行ハサルヘカラス然レモ日本ニテ種  
々コレアル難ヲ表キ能ク銀行ヲ設置セハ其銀

行ハ必ス高大ノ事業ヲ為ス者ト為レト思ハサ  
ルヘカラス若シ銀行能ク種々商業ニ於テ巧  
ニ事ヲ處シ産ヲ殖シ失策ナケレハ其專權能ク  
歐洲銀行ノ得ル所ヨリモ遙ニ大ナル利ヲ占ム  
ルニ至ルヘシ  
第三十三 右ノ如キ勢アルヲ以テ日本政府モ  
亦其銀行ノ利ヲ多少分取スルヲ謀リ其初回ノ  
免許狀ニハ只一時ノ期限ヲ立テ先ツ十年ト定  
メ其期末ニ至リ銀行ノ成否ト國民ノ関不関ノ  
度ヲ視テ程好ク改正スルノ路ヲ預メ開キ置ク



ヘシ

第三十四 他國ニハ日本ニテ探ルヘキ例ナク

全ク新ニ驗考スヘキナリ故ニ一議會ヲ命シテ

此事ヲ驗考シテ建議シ實際ニ照直シテ諸説ヲ

集メシムベシ細大遺漏ナク穿鑿ノ届キタル上

ニ非サレハ決シテ施行スヘカラス此ノ如キ重

大ノ事ニハ寧持重シテ時ヲ費ストモ遥ニ輕挙

シテ失策ヲ為スニ勝レリ

